

日向灘海岸を考えるサミット

河川環境健康問題研究所

富士持 吉人

宮崎県

第4回九州子ども環境会議報告書

心と自然を育て21世紀の人間都市創りの人材育成



人間の開発によって産卵地を失い失神した「先住動物」アカウミガメ
30数年前、ここで生まれたアカウミガメは母ガメに成長して産卵のために
故郷に帰った。産卵する穴掘りに力がつきた。ここは、2億5千万年前から生き
てきたアカウミガメの産卵地です。24年前天然記念物に指定したのに、いつの間
にか人間の遊び場になっていた。ウミガメは「人間の生き方」に警告しました。
「人間も自然と付き合う『知恵』を出さないと同じ運命をたどるのよ」

21 世紀に残したい日本の風景

文化祭 子どもに夢を 贈りし日 残す自然に 向き合う姿



環境の21世紀 子どもたちの理科離れが進む中、いろいろな立場の人と意見を交わした結果、「自然の中で環境保全活動の感性を高める環境教育」に取り組むことになった。

実現のため、「山・川・海・ゴミ」を教材の中心に据え、「異年齢・異業種連携して、天々の立場や年齢に応じた取り組みを進めよう」と言う結論に達した。

子どもと市民どうつなぐか本部会議

【宮崎大学農学部・南九州大学・田野町教育委員会と共催した第3回九州環境ボランティア会議、子どもたちを「全面に引き立てる」第4回九州こども環境サミット】本部会議の風景

新しい 時代を拓く 若者に 心育てる 自然体感



03年7月、小・中・高・大生育てる自然体感活動どう充実させるか大学と協議中の宮崎大学演習林会議室 8月、第3回九州環境ボランティア会議(子ども部会)を開催



03年10月環境大学設立準備委員会「環境保全活動リーダー人材認定証で子どもたちを奨励しよう」次回第4回九州子ども環境サミットは県北で開催することを決定した。
宮崎市民プラザ会議室



04年7月、第4回九州子ども環境サミット現地実行委員会、延岡市役所会議室。参加団体、延岡アースデー実行委員会・ガールスカウト・ゆりかご保育園・九州保険福祉大学・リバーバル・延岡サーフィン連盟・延岡漁業組合・ボランティア協会代表・大会本部役員等。

環境省・宮崎県・宮崎県教育委員会・延岡市等後援、たからファンズなど支援。自然体感活動は、「山は高千穂町、川・海・ゴミ分科会は延岡市」で開催することに決定した。

自然の砂浜といつまで共生できるか

代表 富士持吉人

ふるさとの自然を次世代に贈りたい！ 私と宮崎海岸との出会いは1950年、高校進学のため岩戸村から宮崎市への転居の時でした。広々とした赤江浜、青島海岸の貝殻、一ツ葉海岸では地引網を引かせてもらった。山に生まれた私に「海岸は新しい世界」でした。

環境の21世紀「平成維新の子どもたち」、砂浜へ関心を寄せる子どもも幾人か育つ。一度失った砂浜はもう戻らない。助成金のおかげで機材も一部更新して、「変形する日向灘海岸と向き合う子どもたちの活動記録」を残すことができそうです。

私と子どもの出会いは57年、宮崎県公立学校教師になった時でした。山の学校・川辺の学校勤務を経て、70年にはリアス式の日南海岸、漁港・海水浴場近くの学校勤務の機会に恵まれました。海の子どもはすごい「海の魚を手づかみにする特技？を持っている」と感動した先生もいた。間もなく、子どもたちは「皮膚をまっ赤」にして、「なぜ遊泳禁止区域で泳いだのか」と先生に叱られた。子どもがすごいのではなく、捕まる魚はもう泳げないのです。数日後、川面は魚の死骸で白くなった。私は、「この川は海水浴場の近くだから水質検査をして下さい」と保険所をお願いして転勤しました。

75年、宮崎市の海岸近くの大規模校勤務になりました。ある日、数名の子どもが理科室に来て「港を大きくすると砂も家も流れるとは本当ですか」と質問する。人工港は政治問題、当時、教師に政治問題に対応できる雰囲気はなく、「分からないなあ…」と答えた。

子どもと一緒に海岸と向き合っていたら、環境問題に対する子どもたちの関心も違ったであろう。有限資源の砂浜が痩せ細る日向灘、人工港(宮崎港)とアカウミガメの産卵地の宮崎県指定天然記念物指定、「1980年は砂浜の新しい歴史遺産への幕開け」でした。

過去最大のチリ津波から住民を護った宮崎平野の高さ10m余りの砂堤も、北太平洋最大のアカウミガメの産卵地(天然記念物)も消えた。1980年から百年、高校生は90歳、砂浜と人間の共生「富士持の予言は正しかったのか」、2080年を見届けてくれるそうです。

海岸サミット活動は始まったばかり。民間活動団体九州環境大学を目指し、04年異年齢・異業種交流で開催した結果、「幼児の参加で小学生は先輩になった」、中学生は「自然が見えた」、大学生は「大人の自覚を喚起された」と異年齢活動を評価しています。

第4回九州子ども環境サミット 延岡市長のごあいさつ

こんばんは、延岡市長の桜井です。

みなさん、ようこそ延岡市にいらっしゃいました。

延岡にこんなに多くの皆さんが集まって「九州子ども環境サミット」が開催されることを大変うれしく思います。

延岡市は、工業都市と言われていて、市内には大きな工場がいくつもあります。コンピューターなどで使う電子部品や病院で患者さんの治療に使う器具、そして繊維など、本当に数多くの種類の工業製品をたくさん作っています。

普通は、工業の発達した町では、自然がなくなったり、汚れたりしていますが、延岡市では、ここ行藤少年自然の家のある行藤山に日本の滝百選にも選ばれた大変美しい「行藤の滝」があり、市内の真ん中を流れる大瀬川ではアユが捕れ、海岸にはウミガメが卵を産むために上陸したりします。

工業の発達した町なのに、海・山・川の自然環境に恵まれた珍しいまちです。

今回の「子どもサミット」でも、海・山・川、それにゴミの4つのコースが準備されているようですが、みんなで一生懸命に勉強して、意見を出し合い、環境を守ることの大切さを学んで欲しいと思います。

また、引率者や講師団の皆さん方には、暑い中、誠にご苦労さまです。本市は、平成5年に地球環境保全都市宣言を行い、その後、環境基本計画を策定するなど、環境施策に力を入れており、今年3月には環境マネジメントISO14001の認証を取得いたしております。残された自然を損なうことなく、次世代の子どもたちに残してゆけますよう市民の皆様と一緒に努力しておりますが、特に、本日お見えの「延岡アースディー実行委員会」の皆様には、その先駆的なお取り組みをいただいているところでございます。

このサミットでは、本市の恵まれた自然の中で、引率者・講師団の皆様も子どもさん方も一緒になって、「夫々の立場で取り組める環境保全活動」に向かって触れ合う良い機会にいただければ、幸いと考えております。

第4回日向灘海岸を考えるサミット

宮崎の 自然を見つめ 感じてね 心を育て 自然を守る



延岡市長さんやロータリークラブ会長さんも歓迎のごあいさつ



食事前の連絡事項を聞く子どもたち



講師の大学教授や県文化財保存委員などの話を聞く保育園児・小中高大生・先生・親たち

市民のモラル・ゴミの不法投棄現場

子どもらは 大人のしぐさ見て育つ 大人が先に態度で示せ



延岡市役所提供 不法投棄現場写真・外にリサイクルの家電製品も



海岸の焚き火の跡にもアルコールの空き缶

山にも川にも海にもゴミがいっぱい。延岡だけではない、日本全国、成田空港は日本の縮図。「文化の違い」→オーストラリア人の住居地域にはゴミはないが、チャイナタウンに行くとゴミの山である。

☆ゴミ分科会は、延岡市役所の案内で「不法投棄現場」にも行きました。



◆メモ帳持参⇒どんなゴミが落ちているか？ 記録する子どもたち
調査結果、殆どが大人のゴミだった。大人はお金を持つからゴミを買う。
環境保全、口にしながらぼい捨てる。物と金で心が失せた「日本の文化」

未来を開く英知夢を育む夜の集い

先人の 知恵を活かせば見えてくる 未来を開く夢をを築立てる



宮崎出身の安井息軒先生は江戸時代、日本の若者に「新しい時代の人間の行き方」について「三計の教えを説かれた」と、話す実行委員長講話。「1日の計は朝にあり、1年の計は正月にあり、一生の計は幼少の時にある」



実行委員国友基子ゆりかご保育園園長を囲む夕べの集い
暗闇の中に神様が一人の人間に明かりを灯し、その明かりを二人に分ち、二人の明かりは次々に点火された。この後、保育園の先生がたの指導で、未来の子どもたちに幸あれと未来に向けて発信した。

地球はどうなっているのでしょうか

赤い星 私の星が赤くなる 不思議なはなし耳を澄ませて



今、地球は真っ赤になっている。
これから先、地球とどのように付き合うべきか今日からの2泊3日みんなで考えよう。
地球と共に生きる人間の生き方について語る副実行委員長
のべおかアースディー发起人。

初めて聞く「赤い地球の話」、静に聞き入る子どもたち。

「自分たちの時代は大丈夫かなのかなあー」大部分の子どもは話に集中した。



地球は大変な状態になっている(講師の大学の先生)



地球がどのようになっているのか、分りやすい説明に聞き入る風景。

九州子どもの環境サミットと延岡アースディーの連携

副実行委員長 谷平 興二
(延岡アースディー実行委員長)

平成16年(04)年8月6日(金)、7日(土)、8日(日)の2泊3日、延岡市の宮崎県立むかばき少年自然の家を主会場にして、「第4回九州子どもの環境サミット」を開催しました。天気にも恵まれ、充実した「環境保全活動のリーダー養成活動」が出来たと思います。

6日は、延岡市の櫻井哲雄市長さん、延岡ロータリークラブの甲斐勉会長さんたちが来て、激励のあいさつの後、櫻井市長さんは子どもたちと一緒に食事をしました。

6日の夜は宮崎大学名誉教授上野登先生から「海岸の話や環境問題」の話を行いました。上野登先生の後には、私が約1時間「ビデオによる環境ホルモンの話」をしました。

7日朝、5台のバスと自家用車で山・川・海・ゴミ4分科会会場に移動しました。16時から壁新聞にまとめ、8日朝発表しました。7日夜は九州保険福祉大学小栗一太教授・片山望元動物園長・山崎先生の講演を聞き、質問しました。

私は、山の責任者として高千穂の興木呂幸男さんの山に行きました。山には、国友基子園長の保育園児5/7歳の園児と福岡県から参加した幼稚園児は子ども専用バスでした。バスの中では、各分科会の講師の先生たちが「本日の目標」についてきちんと説明され、現地では「地元講師の先生方」が待機されました。

興木呂さんの山は、「延岡アースディー認定の山の第1号」として、これまで10年以上、延岡市民を中心に九州のいたる所から「実践研修」に多くの人参加します。興木呂さんご夫妻が優しく、きめ細かく指導して頂き、又、必ず特製の「きのこ汁」を作ってくれます。今回も地元特産の材料で作ったきのこ汁をいただきました。

山に行くと、杉の間伐、下草刈、植樹、杉の手入れとあらゆる山の活動を懇切丁寧に指導してくれます。今回は、幼児や小学生までの低年齢にも関わらず、いつも通りていねいに教えていただき、大変お世話になりました。

山のハイキング途中の草花、樹木の解説、特に葉っぱが木の種類によって双葉であったり、三つ葉であったり、だんだんに付いていたり、「太陽の光を求めてたくましく頑張っている話」に、子どもたちは感動しました。私たちは、葉っぱは単に二つ横並びに付いているだけと思っていましたのでとても勉強になりました。

山の頂上からは遠く延岡まで見えるぐらい見晴らしが良く、更にそこには、わざわざ階段で10mぐらいの展望所を作っていました。今回は、幼児全員連れて山に登り、みんなで一緒に山の景色、綺麗な空気を胸いっぱい吸い込みました。

自然に触れ感動の中で子どもは育つ

山の帰りには、一人の小学生が「オニヤンマ」を捕まえて、ものすごく興味を示していました。8日朝の発表会の時も、実に見事に絵に描いて感想を述べました。

私たちが子どもの頃、町の中、今山神社、五ヶ瀬川のどこでも、たくさん見たオニヤンマも、「今ではこんなに遠く、高千穂まで来ないと見れないのかなあ」と感無量の気持ちになりました。久しぶりに、自分の子どもの頃は、「オニヤンマを糸に繋いで飛ばしてそこに寄ってくるオスやメスを捕まえたことが非常に懐かしい思い出として甦ってきました。

「私たち人間は間違いなく動物の一種」であり、自然の恵によって生命をつむいでいることを、久しぶりに実感しました。

今の子どもたちは、「自分たちが自然の一部であり、他の生命体によって生かされている事を理解できる環境が身の回りから無くなってしまっている」と思います。

テレビ パソコン 勉強づけの中ではそれは当たり前。誠に残念ですが感動のない子どもたちが育っていく気がしてなりません。

そういう意識で、子どもたちを中心にした、実に素晴らしい子どもたちの実践活動、研修、自然との触れ合いの場として、「総合的に組み合わせた2泊3日の子どもを中心にした活動」を、今後も続けてゆきたいものです。

延岡では、ここ10年、延岡アースディーとして、市民1,000名の参加で、毎年山の間伐、植樹、沖田川のハマボウの再生桜60,000本の植樹、不法投棄の現場の片付け、長浜海岸の松葉掻きと実に多彩な活動を市民主導でやっております。

子どもたちから、おじいちゃん、おばあちゃんまで、五ヶ瀬川流域で、川下で、水でお世話になっている私たち町の者が、「1年に1回は、川上で水や森を守ってくれている上流の人たちのお手伝いをしよう」と頑張っています。

今後、延岡アースディーと九州子どもサミットがうまく連携がとれると凄い運動になると私は思っています。幼児から小・中・高・大学・大人・異年齢・異業種の組み合わせで企画、実行された富士持先生・実行委員・講師の先生方ご苦労さまでした。

また、ボランティアで協力していただいた、延岡ガールスカウトのみなさん、延岡市役所の皆さんの、「暖かいお世話と、子どもたちへの感動」を有難うございました。

最後に、地元むかばき少年自然の家先生方には、心からのお世話を有難うございました。九州のどこかで、むかばき少年自然の家での2泊3日が、地球環境保全の若きリーダーの思い出の場所として、永く心に残ることを信じ、お礼とさせていただきます。

特別参加のわくわく教育キャンプ

森を見て 元気をもらう喜びと 先輩たちに教えを学ぶ



特別参加の保育園と小学生のわくわく教育キャンプ

ゆりかご児童館と保育園は「年に1回教育キャンプ」を実施しています。今年も11回を迎えました。11回は、中・高生や大学生から大人まで参加する「第4回九州子ども環境サミット」に参加したことで、一段と楽しいです。

講師の先生と延岡市長さんの打ち合わせ



左手前桜井市長、左基本講座担当上野登宮崎大学名誉教授、右奥谷平興二大会副実行委員長(延岡アースディー发起人)、右手講師(地球の動物)片山望元フェニックス自然動物園長

川の自然海の自然を体感する分科会

子どもたち 5台のバスで 楽しいな 自然の姿 我に置き換え

04年8月6日産んだばかりのアカウミガメの卵移設体験指導講師団⇒



暑い日は川が最高



カメの産卵する砂浜は、侵食され海になっていた。わずかに残った産卵地では、産んでも次の満潮で流されるので、夜産んだら、朝には卵の移設が必要である。宮崎海岸では移設しても、次の台風で流れてしまう。延岡海岸は宮崎海岸よりは安全であった。

山下君の作文は、学校から「夏休み体験作文コンクール作品」として、福岡県大会に応募されたそうです。別に、宮崎県立むかばき少年自然の家から「年間報告書の中に掲載します」という連絡がありました。外の体験報告は、どの人の作文も大変しつかりした内容で、二泊三日の自然体感活動の成果を評価するものでした。

八日は、大学の先生の話がありました。かんきょうはかいをする物しつのでせつ明と、今の地球はかんきょうはかいのイエローカードを一枚もらっているところと言う話でした。大学の先生の話のあと、
「何かしつ問はありませんか。」
と、聞かれたので、ぼくが一番に手をあげました。
「このままだと、二千百年の人間は、どこに住めばいいんですか、地下ですか」
と、しつ問したら大学の先生は、
「地球を大切にしたら二千百年も地球はもてる」と、言っていました。
さい後に、七日の体験を新聞にまとめたのを発表しました。自ぜんの中に行つて、かんきょうの大切さがわかりました。人間が、かんきょうはかいをつくり出して、自分で自分の首をしめているみたいだと思いました。
大人は、ぼくたちの未来をこわさないでください。